「2026年度 ＮＥＤＯ先導研究プログラムにおける成果把握・要因分析調査」

公募説明会

2026年11月10日

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
フロンティア部　先導研究ユニット

NEDO先導研究プログラム

脱炭素社会の実現や新産業の創出に向けて、**2040年以降（先導研究開始から15年以上先）に実用化・社会実装**が期待される「技術の原石」たる**要素技術を発掘・育成し、将来の国際競争力を有する産業技術を育成**していくため国家プロジェクトを含む産学連携体制による共同研究等につなげていく

- **NEDO先導研究プログラム**
  - **新技術先導研究プログラム**
    - **エネルギー・環境新技術先導研究プログラム（エネ環）**
    - **エネルギー・環境分野における革新的技術の国際共同研究開発（国際）** 〔対象外〕
    - **新産業・革新技術創出に向けた先導研究プログラム（新新）**
  - **フロンティア育成事業** （2025年度から開始）〔対象外〕
  - **未踏チャレンジ**

事業紹介ページ：https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP_100100.html

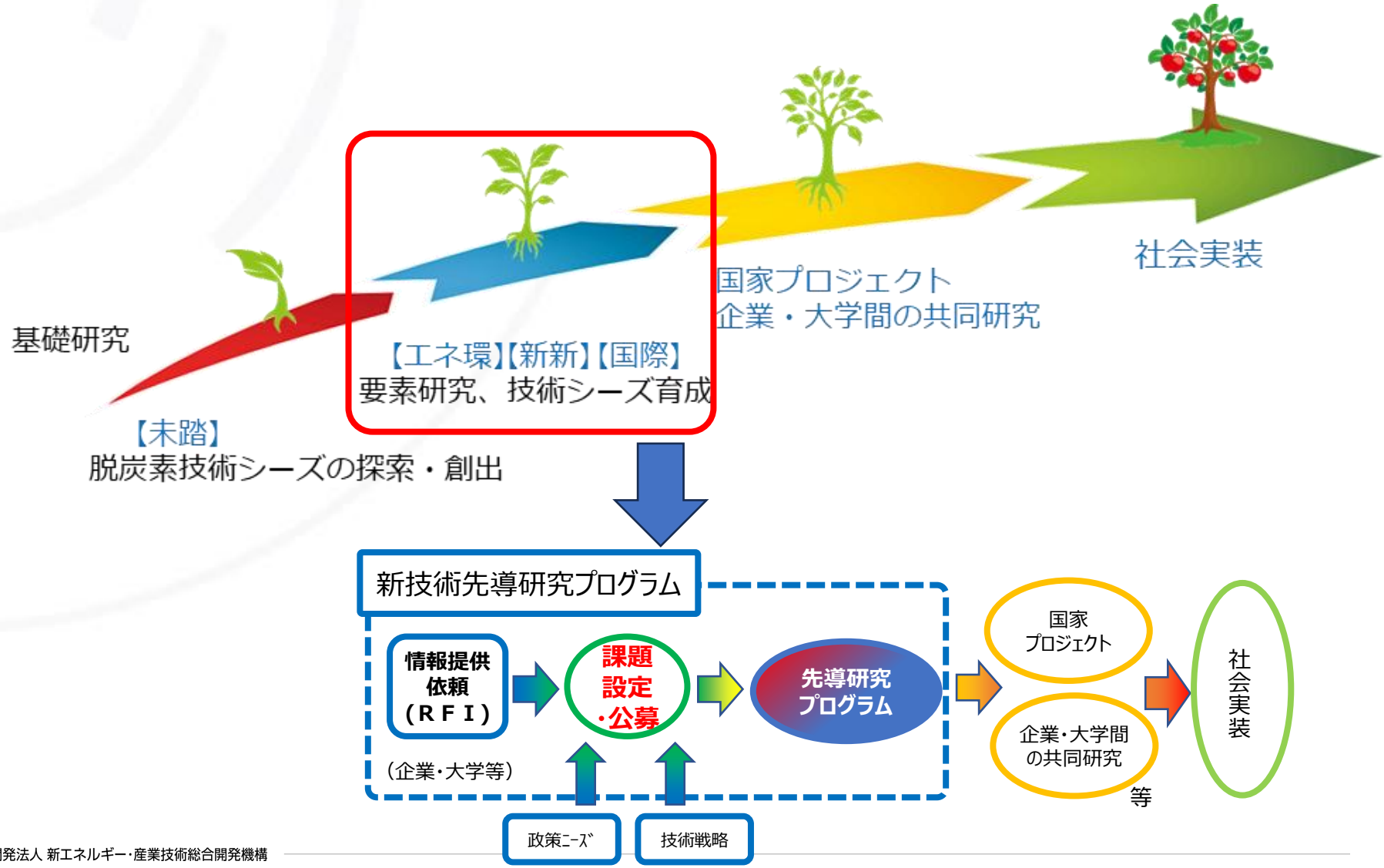
採択テーマ実績

公募採択テーマ数一覧

採択年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	合計
エネ環	36	30	12	32	27	44	50	28	21	16	21	14	5	336
国際										5	9	6	4	24
新新					12	6	5	4	3	9	4	6		49
マテ先								8	3					11
フロ												11	26	37
未踏				8	4	9	8	7	8	7	7	8	5	71
														528

新技術先導研究プログラム

各プログラムの位置づけイメージ

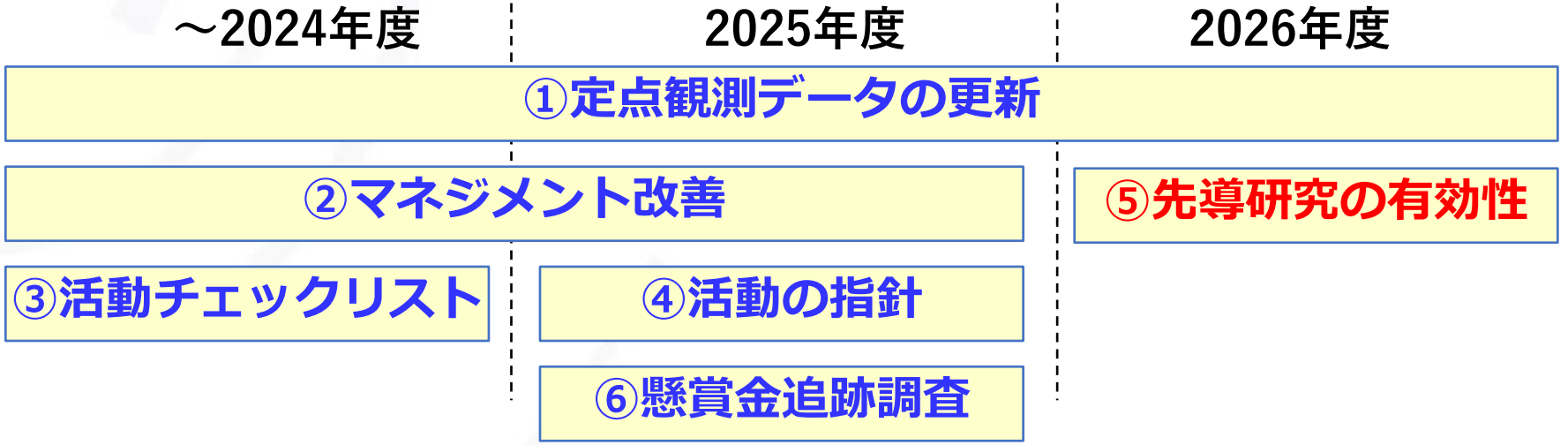


本調査事業の概要（2025年実績より）

これまでに実施した調査では、先導研究において、過去に実施されたテーマの中に、国家プロジェクトにつながった新たな事例や、製品化及び派生技術への展開など民間企業主導による共同研究等につながった成功事例があることが明らかになった。

本事業では、先導研究の有効性の検証と、アウトカム最大化に向けた調査を実施している。具体的には、プログラム終了後のテーマに関するアンケート調査を実施し、プログラム終了後の研究開発状況やプログラムの有効性に関するご意見を把握すると共に、アンケート対象者の中から新たに国家プロジェクトや共同研究等につながったテーマを抽出の上でそれらヒアリング調査を実施し、成果達成の成功要因を分析・把握している。これら調査結果については、研究目標達成のための「目標達成のための活動の指針」の作成や、両プログラムの制度改善の検討に活用し、本調査報告書として取り纏めている。

成果調査事業の実施項目



①制度の中間制度評価で使用する分析データの更新

②先導研究のマネジメントに対する提言・改善提案

③成功事例からヒアリング・分析したアウトカム達成のための活動チェックリスト

④社会実装を出口として先導研究実施中にすべき活動の成功事例に基づく指針

⑤先導研究の有効性の評価指標の検討と分析

⑥参加者視点で活動参加に対する意識の整理

調査の目的

これまでに実施した調査では、先導研究において、過去に実施されたテーマの中に、国家プロジェクトにつながった新たな事例や、製品化及び派生技術への展開など民間企業主導による共同研究等につながった成功事例があることが明らかになった。

一方、制度開始から１０年以上が経過しており、外部環境や政策動向も大きく変化している。これに対応し個々のテーマの成功確率を向上させるために、調査結果に基づくマネジメントの改善点等も参考にして制度についても適宜見直しを行ってきた。今後は、これらの変更も含めて**先導研究プログラム事業全体の分析・評価を行い、事業としての有効性を検証**する段階にあると認識している。

本調査では、アンケート調査を基礎としたこれまでの調査結果の更新を行うとともに、**制度としての評価の視点で調査・分析項目を定義**し、活動の振り返りを行うことにより、**先導研究プログラムの有効性を検証**し、改善策の検討に活用することを目的とする。

【仕様書】構成

１．件名：2026年度「NEDO先導研究プログラムにおける成果把握・要因分析調査」
２．目的
３．内容
（１）事前検討
（２）有効性評価指標の検討
（３）アンケート調査
（４）有効性の分析と改善提案
（５）報告書作成
４．調査機関
５．報告書
６．報告会の開催
７．その他

これまでの評価指標

先導研究の基本計画に記されているアウトカム目標を軸に整理

【アウトカム目標】技術の実用化・社会実装に向けて、先導研究で発掘・育成したシーズを、産学連携体制下で行う国家プロジェクトに発展させること、又は先導研究の結果、より早期の実用化が期待される技術シーズについては、民間企業主導による共同研究やスタートアップの創出等につなげることを目指す。

（１）国家プロジェクト化

アウトカム目標に対する達成状況として以下の指標で整理

①国家プロジェクトへの移行数累計　＝　239件

②先導研究に国家プロジェクト化比率　＝　42.8%（新技術先導）

※「国家プロジェクト化」だけで評価

（２）費用対効果

①各テーマの研究実施前後の研究開発フェーズの進行状況

②各テーマの研究実施前後及び今後の研究開発資金の獲得先

※先導研究では製品化につながっているものがまだわずかであり定性的な指標で評価

先導研究の有効性評価

- **制度開始から１０年以上が経過し外部環境や政策動向も大きく変化**
- **適宜制度の見直しを行ってきた結果も含め事業全体の分析・評価を行う**
- **制度としての評価の視点で調査・分析項目を定義して活動を振り返る**

（２）有効性評価指標の検討【仕様書より】

先導研究の有効性を評価していくための指標を設定し、分析方法を策定する。先導研究は社会実装までの期間が長いことを念頭に、研究開発マネジメントに関する各種フレームワークも参考にして、社会実装までつなげるという最終成果に対する現状の評価、先導研究の研究投資としての意義や効果などの観点から指標を検討する。

＜有効性の評価の視点（例）＞

研究開発のアーリーステージを担うプログラムとしての成功事例の整理
社会実装を評価ポイント(最終出口)とした場合のプロジェクト評価
事業の特徴を評価するためのKPI
費用対効果から見たプログラムの価値　　等

有効性の分析

- **設定した有効性評価の指標が先導研究に有効であるかを検証**
- **指標に対して優れた成果や活動をした事業者をピックアップ・ヒアリング**
- **制度としての価値の評価や改善ポイントを整理**

（４）有効性の分析【仕様書より】

「（２）有効性評価指標の検討」で検討した評価指標に対して、これまでに実施してきた調査結果も利用して分析を行う。評価指標によって調査対象やアンケートの設問の追加が必要な場合には、「（３）アンケート調査」に追加して調査を行う。また、具体的な内容の評価分析のために設定した指標に対して優れた成果や特筆すべき活動を行っていると考えられる事業者をピックアップして、ヒアリング等により有効性に資する活動の整理を行う。

これらのデータをもとに、先導研究プログラムの有効性の分析を行い、設定した評価指針の妥当性の検証を行い、プログラムの狙いや目標とするアウトプット・アウトカムに対して定量・定性評価を行うとともに、制度としての有効性・必要性や活動における改善点などを取りまとめる。

【参考】制度評価視点の例

①市場や実装レベル等から見たプログラムの実効性
②費用対効果から見たプログラムの有効性

①個々の研究テーマの先導研究終了以降の状況から、プログラムの実効性を分析
〔例〕社会実装を最終出口として先導研究の実効性を評価

→研究実施時に想定していたロードマップに対して想定通りの進捗か、他分野への広がり、開発の遅れや中断・中止などギャップがあるか、等について調査と要因分析を行い、先導研究プログラムとしての実効性、必要性を検証

②研究開発の有効性を測る指標としての費用対効果を設定・分析
〔例〕先導研究の特性から「効果」をプログラム終了後の獲得費用で評価

→国プロに限らず民間企業の開発投資なども含めた獲得開発費を調査。想定される事業貢献（成功確率等を加味）と開発投資の対比などの分析

アンケート調査

（１）2026年6月に実施された「ＮＥＤＯ先導研究プログラム」中間評価において、成果把握調査結果から以下のデータ、成果が引用されており、これのアップデートは必要

＜評価項目２＞目標及び達成状況（１）アウトカム目標及び達成見込み

国家プロジェクトに移行した件数（累計）

国家プロジェクト化の状況（比率）

本事業実施前後の研究開発成果

先導研究実施前/後/今後の研究開発資金

（２）従来のアンケート調査をベースとして、必要応じて設問・対象者の加減を行う

設問数　　：アンケート対象者の負荷低減を考慮して設計

調査対象　　：2026年9月末までに事業が終了している先導研究全テーマ（国際・フロンティア育成を除く）

アンケート内容　：これまでのアンケート結果との整合を考慮し例年のアンケート内容をベースとする。あわせて制度の有効性評価のための分析内容に応じたアンケート項目を検討する

※アンケート結果を踏まえ必要あればヒアリング等による詳細な確認を行うことも想定

スケジュール（予定）

＜公募決定＞

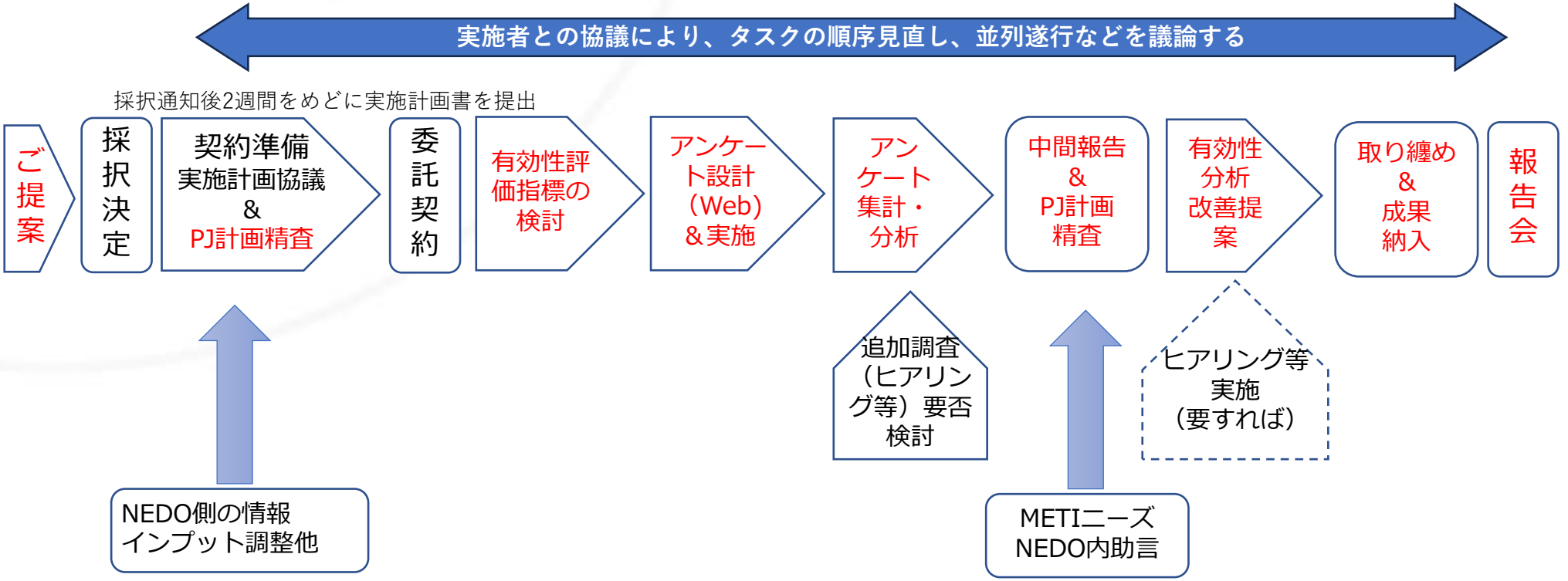
２０２６年１１月　２日（月）　公募開始
２０２６年１１月１０日（火）　公募説明会
２０２６年１１月２４日（火）　お問合せ期限　１２時
２０２６年１１月２５日（水）　12時　公募〆切
２０２６年１２月上旬　採択審査

＜調査事業＞

２０２６年１２月中旬　調査全体の実行計画の詳細協議
２０２７年５月３１日（火）　成果報告書（公開版）提出
２０２７年５月３１日（火）　調査事業終了

想定するタスクの流れ

- 限定するものではないが、以下にNEDOで想定しているタスクの流れを示す
- 仕様書で規定するの要件は、以下のような内容（詳細は、仕様書による）
  - 調査期間中は、定期的にＮＥＤＯと打ち合わせを行い、進捗状況をＮＥＤＯに報告すること
  - ２月～3月をめどに中間報告を行うこと
  - 最終報告書については、提出期限を、２０２７年５月３１日とする
  - 調査事業成果報告会において、成果報告を依頼する
  - 仕様書に定めなき事項については、ＮＥＤＯと実施者が協議の上で決定する



公募提案にあたって

【受付方法】

本公募は、電子申請システム「Jグランツ」で応募を受け付けます。所定フォームから、必要情報の入力と提出書類のアップロードを行ってください。また当該申請システムを通じて行われた申請に対する採択・不採択結果についても、原則として当該申請システムで通知等を行います。

なおJグランツの使用にあたっては、事前にGビズIDの「GビズIDプライムアカウント」又は「GビズIDメンバーアカウント」が必要です。GビズIDの取得は2週間以上かかる場合もあるため、GビズIDを未取得であれば余裕をもって登録手続きを行ってください。GビズIDが無いと本事業への応募ができませんので、十分留意ください。

【受付期間】

2026年11月２日(月)～2026年11月２５日(水) 正午まで

【留意事項】

※Jグランツ上の申請は提出期限を厳守ください。提出期限を過ぎた提案は受け付けません。

※他の提出方法（持参、郵送、FAX又はE-mail等）による提出は、原則受け付けません。

※万が一、応募者の責に依らない理由（例：組織形態上、GビズIDの取得がそもそも不可でJグランツが利用できない、Jグランツ等の外部システムの障害発生により申請ができない等）により、提出期限までにJグランツ上の申請処理が困難な場合には、提出期限前までに必ずNEDO担当者まで連絡し、NEDO担当者の指示に従ってください。

（連絡先：enekan[*]nedo.go.jp ： 送信時は[*]を@に変えて使用）

ご応募をお待ちしております

【問い合わせ先】

本公募の内容に関する質問等は以下の問い合わせ先のE-mailで受け付けます。
ただし、審査の経過等に関するお問い合わせには応じられません。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
フロンティア部 先導研究ユニット 寺本、服部、川上
E-mail： enekan[*]nedo.go.jp
E-mail は上記アドレスの[*]を@に変えて使用してください。